



第110期(平成31年3月期) 第2四半期 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2018年12月3日

目 次

1. 第110期(平成31年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第110期(平成31年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 商品紹介
- 開発商品紹介
- 基本情報

目 次

1. 第110期(平成31年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第110期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位:百万円)

科 目	H29年3月期末 (第108期末)	H30年3月期末 (第109期末)	H31年3月期末 (第110期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	19,800	20,522	19,776	▲745	▲3.6%
現金預金	4,387	5,619	5,014	▲604	▲10.8%
売上債権	11,738	11,575	11,183	▲392	▲3.4%
棚卸資産	3,179	3,231	3,233	1	0.1%
その他	495	95	344	249	262.2%
固定資産	15,130	15,133	15,486	352	2.3%
有形固定資産	8,688	8,486	8,296	▲189	▲2.2%
無形固定資産	12	43	37	▲6	▲15.4%
投資その他の資産	6,428	6,603	7,152	548	8.3%
資産合計	34,930	35,656	35,262	▲393	▲1.1%

※第108期末については繰延税金資産と繰延税金負債の相殺前の金額を記載しております。

※百万円未満切捨て

第110期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	H29年3月期末 (第108期末)	H30年3月期末 (第109期末)	H31年3月期末 (第110期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,465	12,724	12,348	▲376	▲3.0%
仕入債務	6,738	6,875	6,957	82	1.2%
短期借入金	3,226	3,226	3,280	53	1.7%
その他	2,499	2,623	2,111	▲512	▲19.5%
固定負債	3,662	3,072	2,866	▲206	▲6.7%
長期借入金	1,909	1,305	1,003	▲302	▲23.2%
その他	1,752	1,767	1,863	96	5.4%
負債合計	16,127	15,797	15,215	▲582	▲3.7%
純資産	18,803	19,858	20,047	189	1.0%
負債及び純資産合計	34,930	35,656	35,262	▲393	▲1.1%

※第108期末については繰延税金資産と繰延税金負債の相殺前の金額を記載しております。

※百万円未満切捨て

第110期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

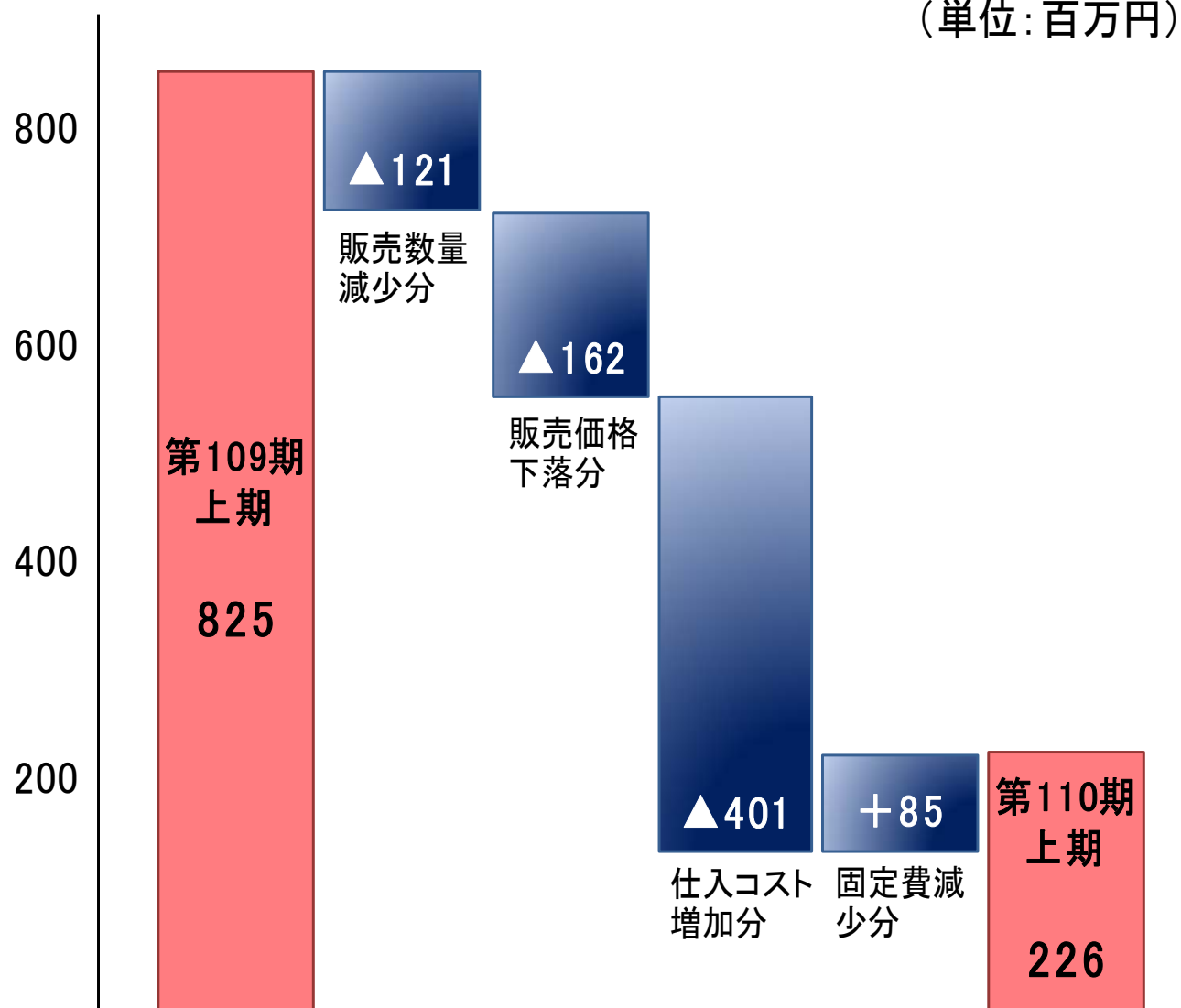
(単位: 百万円)

科 目	H29年3月期 (第108期) 第2四半期	H30年3月期 (第109期) 第2四半期	H31年3月期 (第110期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,624	16,677	15,824	▲853	▲5.1%
売上原価	13,205	14,291	14,044	▲247	▲1.7%
売上総利益	2,419	2,385	1,780	▲605	▲25.4%
販売費及び一般管理費	1,680	1,560	1,554	▲6	▲0.4%
営業利益	738	825	226	▲598	▲72.6%
営業外収益	95	109	181	71	65.4%
営業外費用	84	133	131	▲1	▲0.9%
経常利益	749	801	276	▲525	▲65.6%
特別利益	—	—	—	—	—
特別損失	—	—	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	749	801	276	▲525	▲65.6%
税金費用他	231	267	102	▲165	▲61.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	518	533	173	▲360	▲67.5%

※百万円未満切捨て

第110期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解

(単位：百万円)



販売面においては、エアー緩衝材、テープ用基材及び表面保護フィルム等の販売数量減少により 1億21百万円減益。また、比較的単価の高い製品の販売比率が低下したことによる平均販売価格の下落により 1億62百万円減益となった。

費用面においては、原材料価格の上昇や仕入商品の取扱量増加による仕入コストの増加により 4億1百万円減益となったが、労務費その他の固定費削減により 85百万円増益となった。

その結果、営業利益は 5億99百万円の減益となった。

目 次

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況（軽包装材料、産業資材、機能性材料）

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

(単位：百万円)

科目／セグメント	H29年3月期 (第108期) 第2四半期	H30年3月期 (第109期) 第2四半期	H31年3月期 (第110期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,624	16,677	15,824	▲853	▲5.1%
軽包装材料	7,034	6,902	6,680	▲221	▲3.2%
産業資材	3,521	3,577	3,332	▲244	▲6.8%
機能性材料	4,806	5,851	5,455	▲395	▲6.8%
その他	263	346	355	9	2.6%
営業利益	738	825	226	▲598	▲72.6%
軽包装材料	432	430	300	▲130	▲30.3%
産業資材	▲96	▲403	▲462	▲58	—
機能性材料	374	751	376	▲374	▲49.9%
その他	27	46	11	▲34	▲74.8%

※百万円未満切捨て

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

第2Q売上高
3,381百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 単身世帯増加により市場の拡大が期待

医薬品・医療器具関連

第2Q売上高
1,278百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

第2Q売上高
398百万円



大型製袋機導入により本格生産開始。今後は独自商品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチの採用が進み、伸びは一服

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材の拡販に期待

精密機器関連・その他

第2Q売上高
1,621百万円



「エアロテクト」をはじめとするエア緩衝材がこの分野の代表商品。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

収益性・成長性

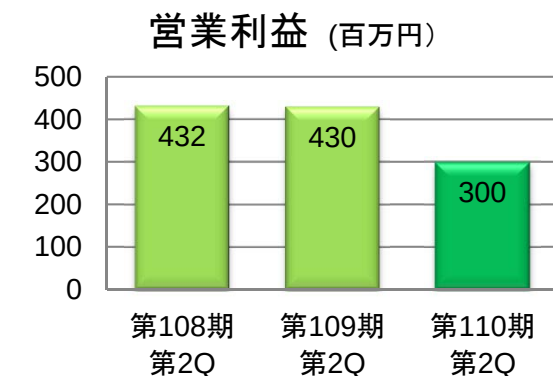
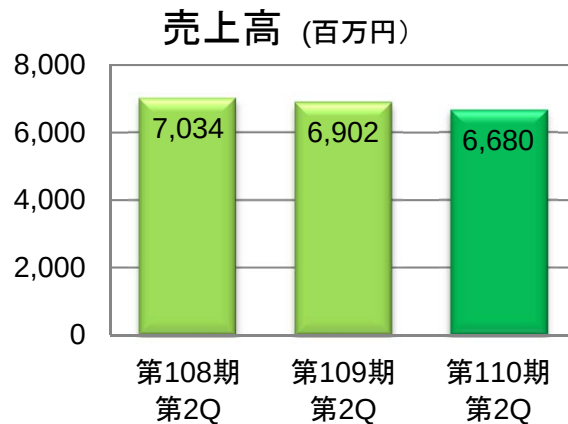
- 「エアロテクト」は顧客開拓が進むも、主力ユーザーの使用量削減の影響大

※当期より製品の一部を「精密機器関連・その他」より「医薬品・医療器具関連」へ振替えました。（前期：183百万円、当期：193百万円）

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高： 6,680 百万円 （前年同期比 3.2% 減）
- 営業利益： 300 百万円 （前年同期比 30.3% 減）

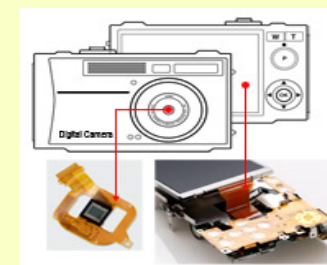


- 食品用包材は、電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」が新タイプ投入の効果で受注拡大。清涼飲料用パウチも堅調で、増収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTPシート用フィルム「テクニフィルム」が伸びるも、他の包材の受注が減少し、減収。
- 洗剤・トイレタリー関連包材は、化粧品用が低調。シャンプー・リンス、液体洗剤等の詰替え用も伸び悩み、減収。
- 精密機器その他の用途の包材は、エア緩衝材「エアロテクト」の主力ユーザーによる使用量削減を受け、減収。
- 原油価格上昇に伴って原材料コストが増加し、減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

第2Q売上高
804百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は横ばい

ラミネート布・ 布粘着テープ

第2Q売上高
907百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

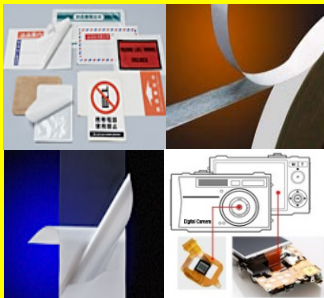
- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

第2Q売上高
1,620百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

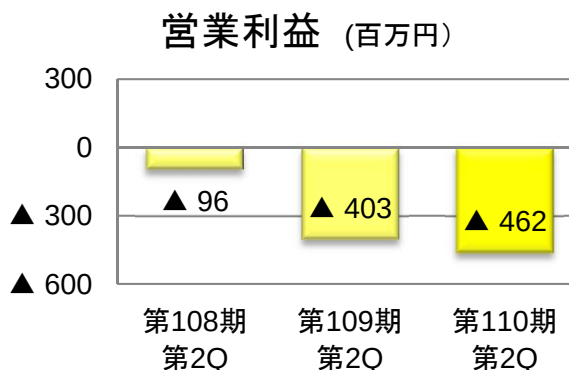
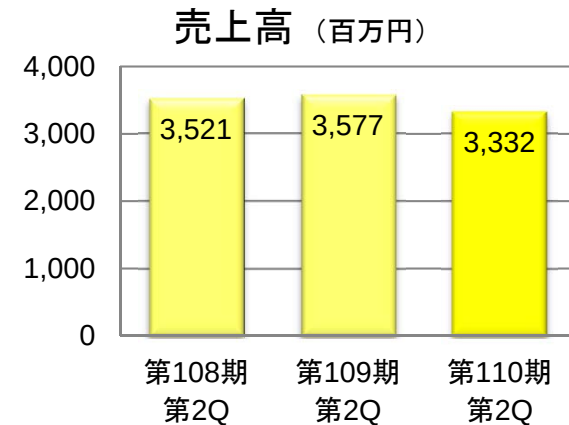
収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- FPC用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 3,332 百万円（前年同期比 6.8% 減）
- 営業利益：▲462 百万円（前年同期実績 ▲403百万円）



- テープ用基材については、粘着テープの国内需要は安定しているものの、国内テープメーカーの競争は激化。これにより当社の受注機会が減少し、減収。
- 一部銘柄で新工場への生産移管が遅延し、生産量の減少につながったこともテープ用基材の減収要因。
- 剥離紙については、電子部品用両面テープや医療用品向けが伸長したが、春先以降、FPC用工程紙の受注が回復せず。その他の用途も伸び悩み、減収。
- 売上減少と原材料コストの増加により営業損失拡大。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料 (蘇州)有限公司



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

第2Q売上高
1,176百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 光学用途はNSタイプに成長期待

PAC

第2Q売上高
854百万円



2層押出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 偏光板用は一定の需要見込めるも、品質要求は高度化
- 強粘着タイプの拡販が課題

SAT・ 粘着加工品

第2Q売上高
3,424百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

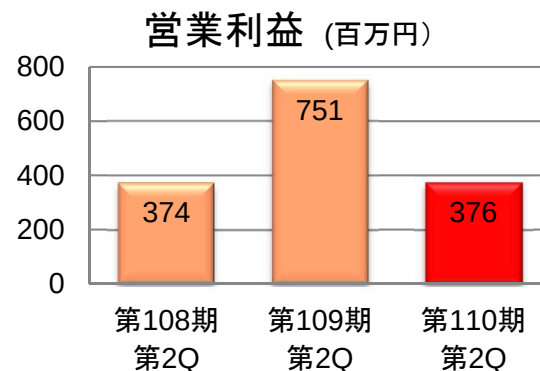
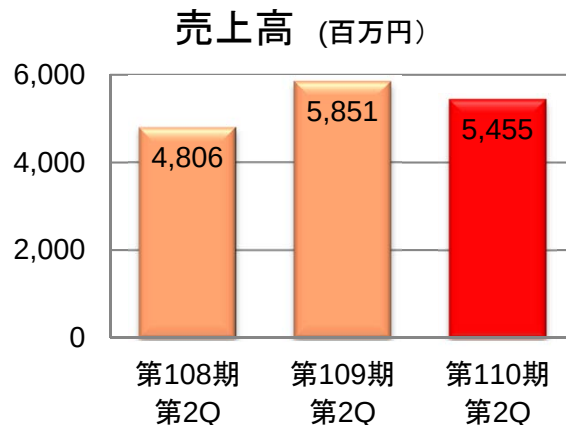
収益性・成長性

- 4K・8K対応に向け、長鼎電子材料を含むグループ全体の品質レベル向上が課題
- スマートフォン関連は受注量の変動大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 5,455 百万円 （前年同期比 6.8% 減）
- 営業利益： 376 百万円 （前年同期比 49.9% 減）



- 「サニテクト」については、PET基材の「NSタイプ」の受注が回復するも、その他の光学用途が落ち込み、減収。
- 「PAC」については、偏光板用で一定の受注を確保するも、スマートフォン関連及び一般用途が減少し、減収。
- 「SAT」については、液晶テレビ関連の受注が好調。一方、スマートフォン関連が、モデルチェンジ等に伴う大口案件終息の影響や、その他の光学用途の受注低下を受け、減収。
- 売上減少と原材料コスト増加の他、比較的収益性の高い製品の販売比率が低下したことにより、利益半減。

目 次

3. 第110期(平成31年3月期)業績予想と今後の施策

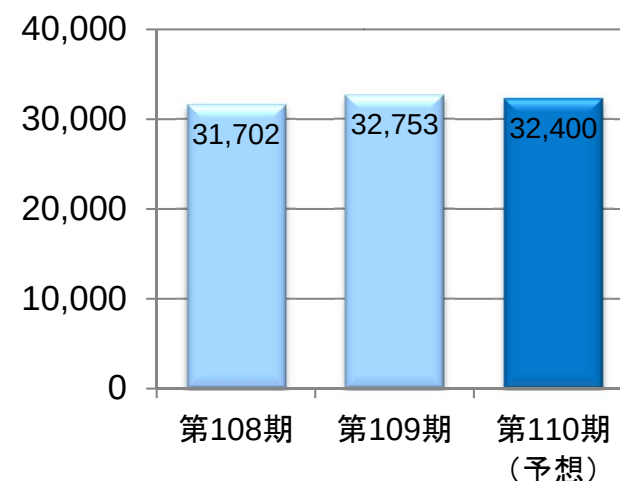
- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第110期業績予想と今後の施策：通期業績予想

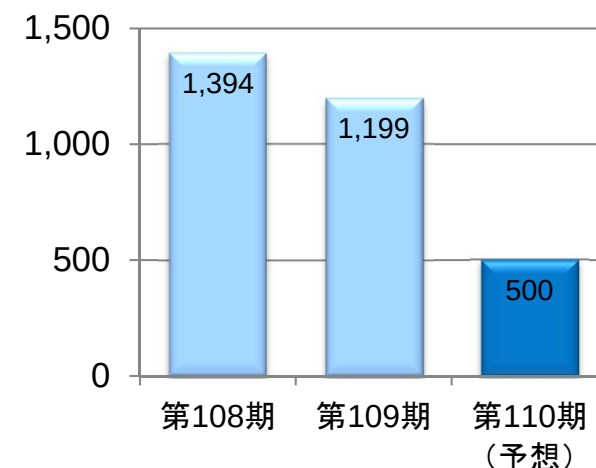
(単位：百万円)

科目／ セグメント	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期)	H31年3月期 (第110期) (見込)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,702	32,753	32,400	▲353	▲1.1%
軽包装材料	13,854	13,114	13,300	185	1.4%
産業資材	7,194	7,269	7,400	130	1.8%
機能性材料	10,096	11,690	11,000	▲690	▲5.9%
その他	556	678	700	21	3.1%
営業利益	1,394	1,199	500	▲699	▲58.3%
経常利益	1,460	1,134	750	▲384	▲33.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	992	887	450	▲437	▲49.3%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※百万円未満切捨て

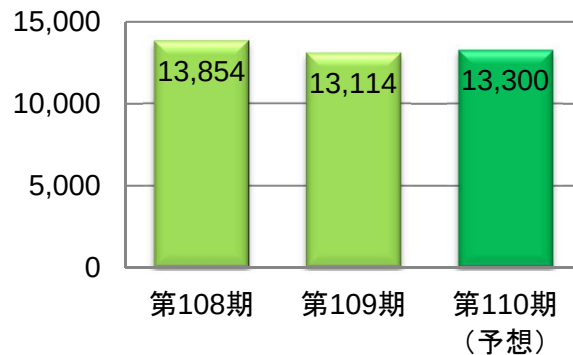
第110期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

【第110期業績予想】

- 売上高：13,300 百万円（前期比 1.4% 増）
- 営業利益：520 百万円（前期比 13.1% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 食品用包材については、「レンジD○！」のラインアップ拡充と採用ユーザーの増加により増収。「テクニフィルム」が好調な医薬・医療用包材も増収を見込む。
- 洗剤・トイレタリー用包材は前期並みを見込むが、精密機器・その他の包材では、「エアロテクト」の主力ユーザーによる使用量削減が進み、減収の見込み。
- 下期より、独自製品を中心とする拡販推進と増加した原材料コストの価格転嫁により、減益額の圧縮を見込む。

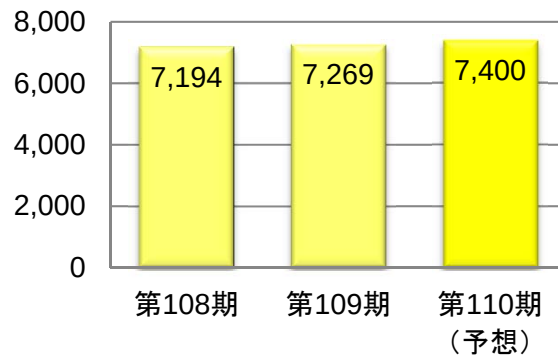
第110期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

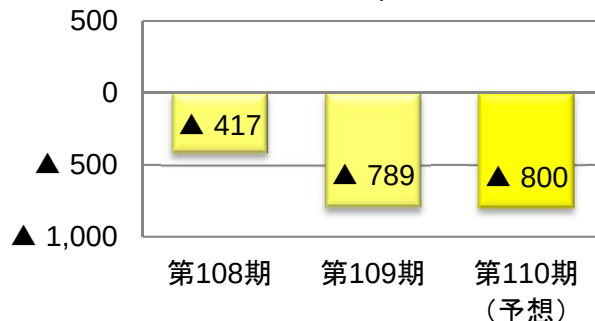
【第110期業績予想】

- 売上高： 7,400 百万円（前期比 1.8% 増）
- 営業利益：▲800 百万円（前期実績 ▲789百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、今期中に新工場への生産移管を完了するとともに生産体制を整え、増収を見込む。
- 剥離紙については、FPC用工程紙の受注が回復傾向にあり、増収を見込む。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙の受注が開始するも、業績に対する貢献は来期以降の見通し。
- 下期は、売上増加と原材料コストの販売価格への転嫁が進み、営業損失の圧縮を見込む。

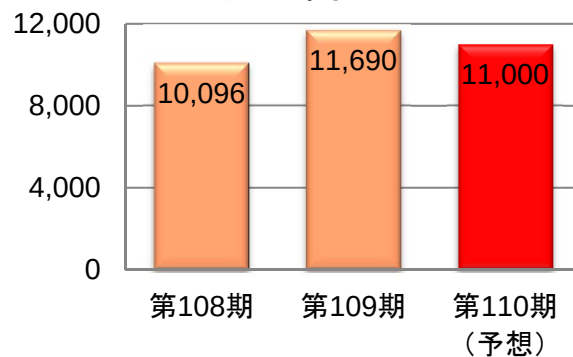
第110期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

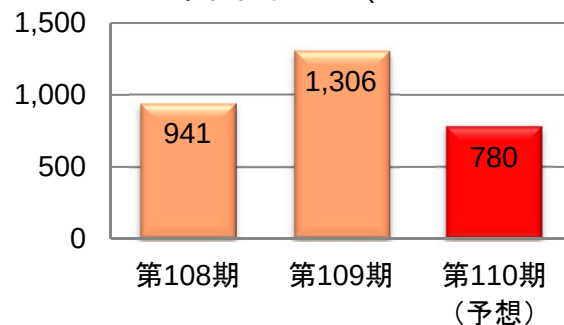
【第110期業績予想】

- 売上高： 11,000 百万円 （前期比 5.9% 減）
- 営業利益： 780 百万円 （前期比 40.3% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

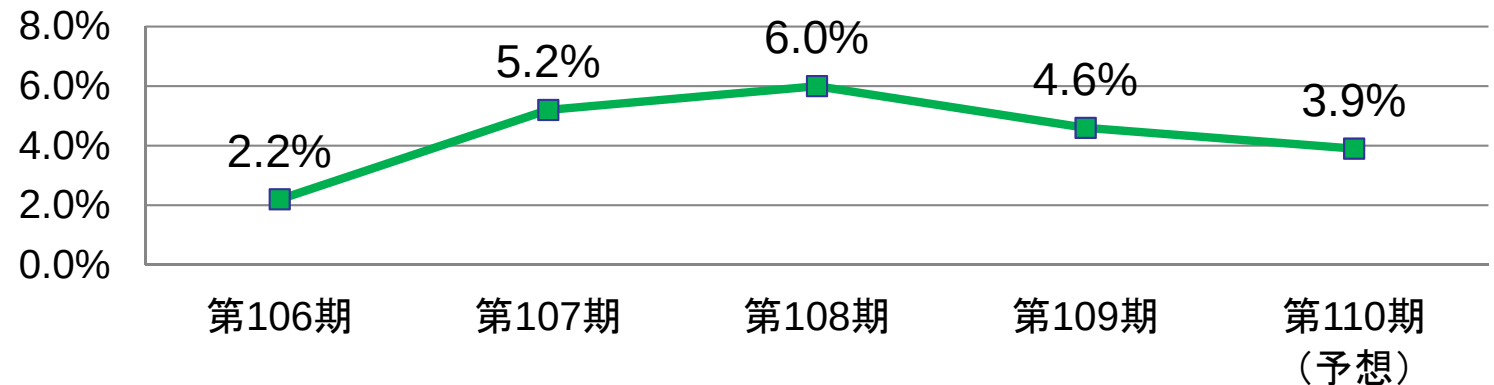


- 液晶テレビ向け偏光板用の表面保護フィルムは、下期に入っても一定の受注が見込まれる。
- スマートフォン関連は、下期より新規案件による受注を見込むも、立ち上がり時期のずれ込みで上期の減収をカバーできず。
- 長鼎電子材料に対する技術指導強化によって生産量増加を図り、海外向けの売上回復を見込む。
- 下期より収益性の高い製品の受注回復が見込まれるも、原材料コストの増加を補えず、減益を見込む。

第110期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

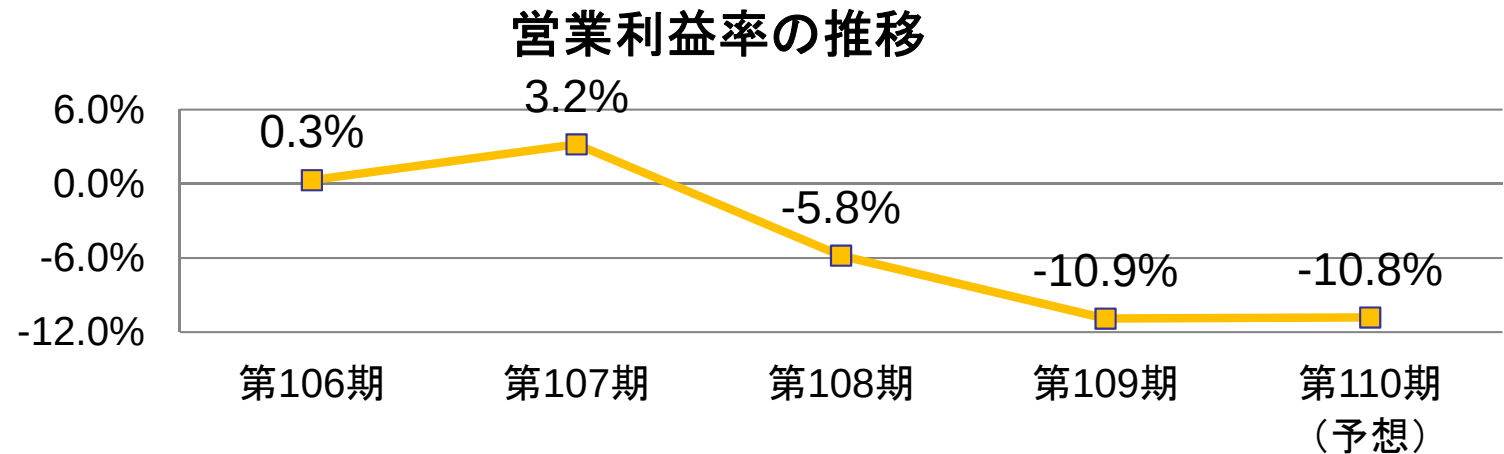
営業利益率の推移



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 当社が強みを持つ独自商品を絶えず開発・改良することで高い競争力を維持し、当セグメント全体の収益性向上に努める。
- 作業員の多能工化を進め、急激な受注の変動にも対応しうる柔軟で効率的な生産体制を構築し、事業基盤の安定化を図る。
- プラスチック包材に代わる紙製バリア包材の開発、商品化を推進するなど、新たな需要の創出を目指す。

第110期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

産業資材

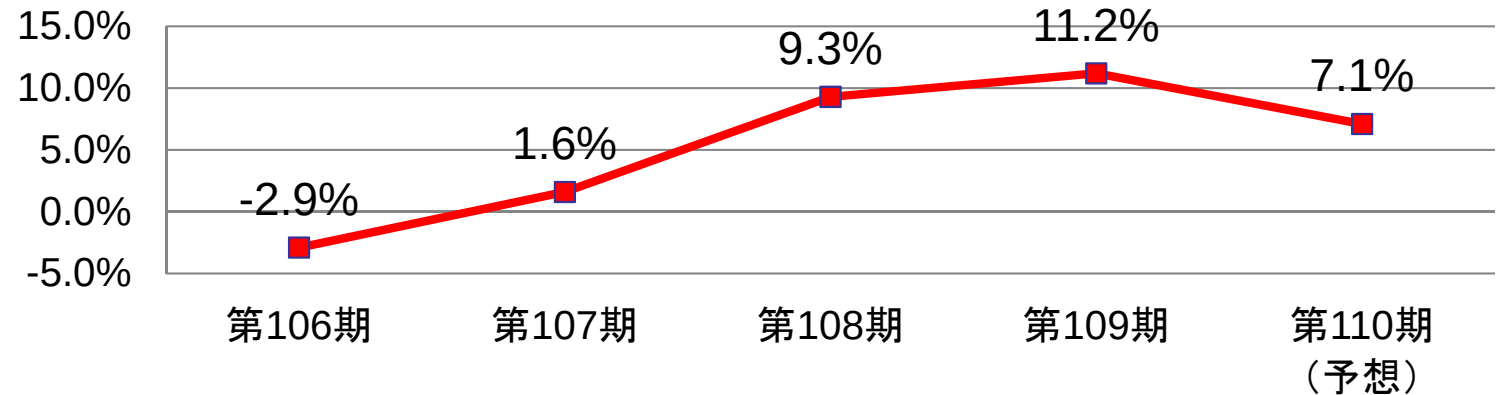


- 積極的な受注獲得と生産体制の再構築によって、早急に収支均衡を図る
- 掛川工場WESTを中核とする生産体制を早期に確立するとともに、品質・納期面で顧客満足の上昇を追求し、取引拡大を推進する。
- FPC用工程紙の低コスト化と顧客開拓を推進し、IT関連市場におけるシェア拡大と収益向上によって、早期の収益改善を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙の採用実績を積み上げることで成長分野における重要資材のサプライヤーとしての地位を固め、安定した収益を確保する。

第110期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料

営業利益率の推移



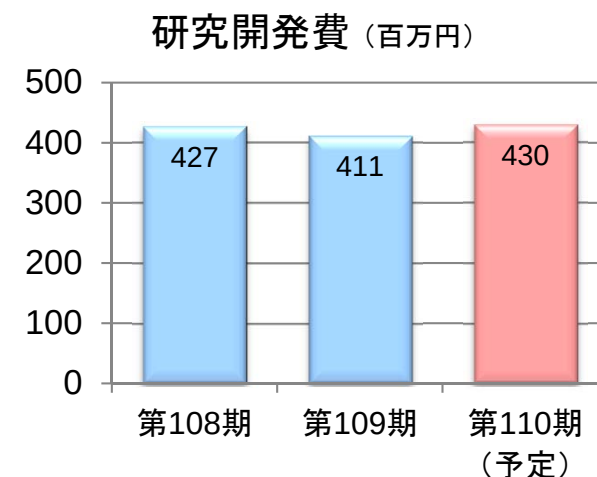
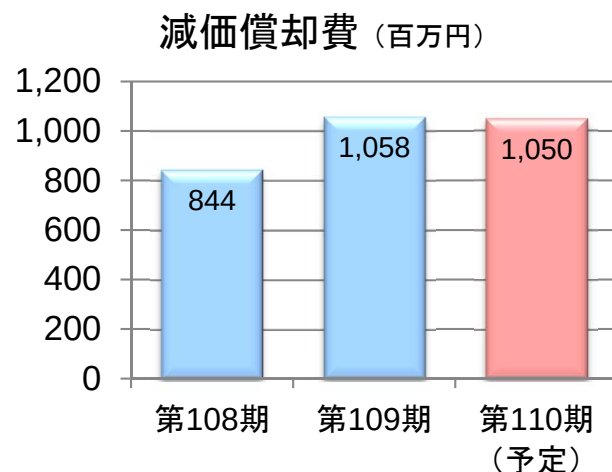
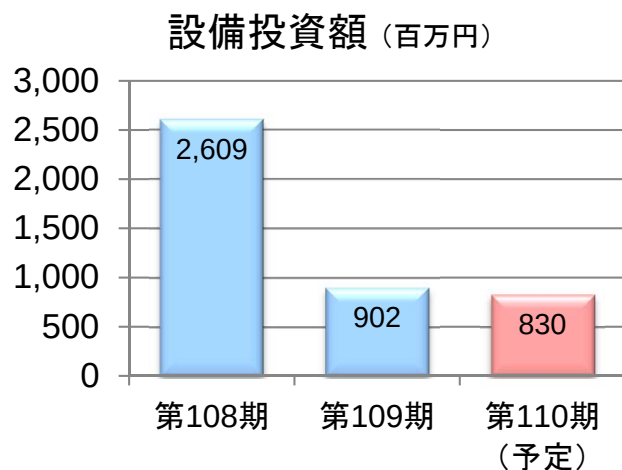
- 技術・品質・顧客対応の強化で高収益を維持する
- 長鼎電子材料に対する技術指導の強化によって、品質面で互いに補完しうる生産体制を構築し、当社グループ製品に対する信頼向上とシェア拡大を実現する。
- 顧客密着型の開発態勢をより強化して、光学用途のニッチな分野においても、新製品の開発段階から顧客との協業関係を構築し、将来の受注機会を確保する。
- 将来有望な有機ELに対する知見及び技術を得るため、有機ELの表面保護に関する開発テーマを顧客に密着し、発掘する。

第110期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

科 目	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期)	H31年3月期 (第110期) (予定)	備 考
設備投資額	2,609	902	830	設備の改造 各種試験・検査機器等の更新
減価償却費	844	1,058	1,050	新工場の償却負担は軽減するも、R&Dセン ター及び子会社で増加
研究開発費	427	411	430	既存分野の開発は維持 新規分野の開発を推進

※設備投資額は無形固定資産を含む 百万円未満切捨て



目 次

4. 参考情報

- 商品紹介
- 開発商品紹介
- 基本情報

参考情報: 商品紹介

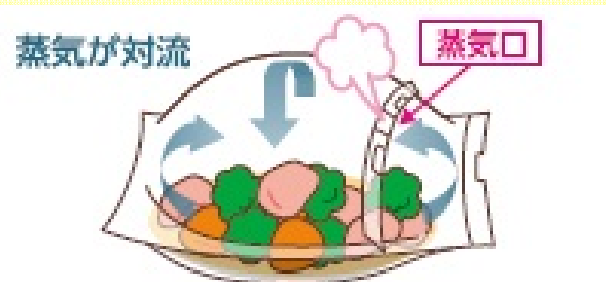
■ チャック付きレンジDo！

経緯

- ライオン株式会社様の商品コンセプトに基づき、当社の独自商品である「レンジDo！」をベースとした家庭用電子レンジ調理袋を共同開発。
- 2018年3月より「リード プチ圧力調理バッグ」として全国で発売。

特長

- 鍋やフライパンを使わず、電子レンジだけで手作り・出来立ての料理を短時間で作ることができる。
- 食材を入れて冷蔵・冷凍保存することで作りおきができ、必要なときにそのまま電子レンジで調理することができる。



**「レンジDo！」の
新たな販路を開拓**

参考情報：開発商品紹介

■ 紙製バリア包材

- ◆ 現在問題となっているマイクロプラスチックによる海洋汚染の防止・軽減に向けて、プラスチックフィルムを主原料とする包装材料メーカーとして可能な取り組みを行ってまいります。
- ◆ その取り組みの一つとして、P to P(プラスチックから紙へ)の方針の下、紙製バリア包材の商品化に向けて、開発を行っています。



各種試作品

■ **特長** 本製品はバリアコート紙の使用により次の特長を有します。

1. 酸素バリア性

優れたバリア性により、内容物を保護し、品質を維持。
(現在、防湿性向上タイプを開発検討中)

2. フレーバーバリア性

内容物の香りを保持し、におい漏れ、におい移りを抑える。

3. 環境適合性

再生可能な循環型資源である「紙」を基材に使用しているため、CO₂排出量の削減等、環境負荷の軽減が可能。

参考情報: 基本情報

商 証 券 コ ー ド
設 表 立 者 所
代 業 者 所
事 業 所

資 本 金
事 業 内 容
連 結 従 業 員 数
決 算 期

株式会社 サンエー化研
4234 (JASDAQ スタンダード)

1942年9月 (昭和17年9月)

代表取締役社長 山本 明広

本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4

営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋

【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)

生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良

野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

【海外】中国蘇州 (持分法適用関連会社 長鼎電子材料)

研究開発拠点: 掛川

21億76百万円

高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売

696名 (平成30年9月30日現在)

3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(12月3日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp